令和８年度　児童朝会　講話

■令和８年　４月２０日　№３２「さくら２」

①おはようございます。いよいよ１年生も入って初めて全学年で児童朝会をスタートしていきますね。１年生は前回のお話しをきいていないので、少し振り返りますね。

②このきれいなピンク色のタオルをみんなに見てもらいました。これは桜でそめるので、「桜染め」というのですが、桜の花びらではなく何からこのピンク色は出ているのだったでしょうか？

③そう桜の枝や幹の皮からこのピンク色が出ているのでしたね。冬の間に地面から吸い上げたピンク色の成分がこの茶色い木の皮にためられて、暖かくなると枝の先から吹き出すようにピンクの花が咲く、これが桜の花の咲き方でした。

④このことは、言葉の世界と同じということも紹介しました。言葉は口でしゃべっていますが、心で感じ、頭で考えたことが、口から出ているのでしたね。だから、１年の目標を立てるときなども、友達といっしょでいいやなど、適当に決めるのではなく、きちんと昨年度を振り返って、決めると、きれいな桜の花のように、いい目標になるという話をしました。

⑤そしてお題です。桜は、温かくなったら咲くと言いましたが、実は日本中どこでも咲くわけではなく、一番暖かい沖縄県では咲かないのです。なぜ沖縄県では桜が咲かないのでしょうか？皆さんの答えの予想では、「冬が暖かいから」というのが一番多くありました。二番目が夏が暑いからでした。正解は、皆さんの予想通り、冬が暖か過ぎるので、桜の花が咲かないのです。え？暖かくなると桜は咲くはずなのに、なぜ冬が暖かいと咲かないのでしょうか？少し周りの人と聴き合ってみてください。

⑥桜の花が咲くしくみは、本当に複雑で２つのことが大きく影響しています。１つは冬の寒さがないと咲かないということです。なんと桜は８度以下の低温が累計 1000 時間、約４２日間必要なのです。これが沖縄県で桜が咲かない理由です。沖縄県の冬の平均気温は１７度ぐらいです。今より少し暖かい温度です。これでは桜が咲きません。

桜は秋になると葉っぱを全部落とし、まるで枯れているようになります。ここ大阪では１２月になると８度以下となり、１月２月と寒い日が続きます。でもこの寒さがあるから、桜は花を咲かせるのです。このことを休眠打破といいます。

人も同じだと思います。桜が咲くような幸せの日、成功の日は突然現れるのではなく、冬の寒い日のように毎日耐える、我慢する日があるからこそ、そのような幸せがおとずれるのだと思います。

２つ目の影響の話をします。そのような寒い日が続き、２月の初めごろにこの冬で一番寒い日がやってきます。今年は、２月８日が最低気温-1.7 度でした。桜はなんとこの日がわかるようなのです。そしてこの日からの最高気温を自分ではかっていきます。2 月 9 日は 6.2 度、10 日は 10.1 度とはかりながら、足し算していきます。この 2 つの足し算は…、そう 16.3 度、こうして毎日の最高気温を足し算していき、600 度を超えると桜の花が咲くのです。これを積算温度 600 度の法則といいます。

とても不思議ですね。桜はどうやって温度をはかったり、足し算をしていくのでしょうか？これを今週のお題とします。「答えがひらめいたよー」という人は、校長室前のボードに書きにきてください。

今日も最後まで静かに聞いていただき、ありがとうございました。